

東京2020オリンピック競技大会Team JAPAN男子4×100mリレー戦略

日本陸連強化委員会は、Team JAPANとして、東京オリンピックの男子4×100mリレーにおいて金メダルを獲得するために、アスリートやコーチングスタッフ共通の理解のもとに、以下の戦略を採択する。

【戦略】

日本陸連の編成方針が示す目標は、「個人やチームがより多くのメダル獲得や入賞を果たすこと」である。中でも、現在の陣容を見るに、4×100mリレーの日本代表チームのポテンシャルの高さは誰もが認めるところであり、私たちは2020東京大会が過去最高の成績を残すのに理想的なチャンスだとの認識に立っている。

オリンピックの舞台は言うまでもなく、出場権を獲得した競技者の晴れの舞台であり、そこでそれぞれのチャンスに最大の能力を発揮するのを旨としている。

陸上競技は、そのように数多くの個人種目で満たされている一方で、いくつかの団体種目も抱えている。団体種目に登場する競技者は、個人の能力発揮を求められながらも、日本の陸上競技界全体を代表するという崇高な責務を負っている。

個々の夢を追求しながら団体の責務を全うするという厳しい要求の中で、日本陸連は以下の戦略を採択するに至った。

- 1) ダブルスタートは、これを回避する（ダブルスタート=100m、200mの両種目に出場すること）。
- 2) ただし、別記の基準*を満たした場合には、十分なコミュニケーションを交わしながら個人複数種目のエントリー及びリレーに向けた強化を同時に推進する。

〔根拠〕 厳しい出場制限

- ①. 東京大会のリレーメンバーには、各国いずれも厳しい出場条件が課せられた。ワールドアスレティックスは、今大会から初めてリレーメンバーをリオ大会より1チームそれぞれ一人少ない最大5人に制限するルールを定めた。しかも、100m個人種目の出場権を得た競技者は、4×100mリレーのメンバー5人のうちに必ず含まれなければならない。それはすなわち、リレーメンバー5人のうち一人でもコンディションを崩せば、チーム編成が極めて厳しい状況に追い込まれる。

②. これまでの日本や諸外国の状況から、個人種目に2種目出場した後は、リレーに向けたコンディション面での状況維持が極めて難しいのは結果が証明している。

(例) 世界選手権 日本 2015年、2017年、2019年 中国：2019年

イギリス：2019年 カナダ：2019年

③. 東京大会のスケジュールは、ドーハ世界選手権と比較しても厳しい。スプリント種目の実戦日程はドーハが9日間であったのに対して、東京は7日間で行われ(下表参照)、競技者の負担は極めて大きい。

④. ルールでは、個人種目にあらかじめエントリーしながら棄権した場合、それ以降の種目は、リレーを含めて全て出場できなくなる。

<World Athletics Technical Rules 2020 Edition Rule142 4.4>

⑤. 選手層が極めて厚い一部の国を除いて、複数の国でリレーメンバーの選出にあたって当該陸上競技連盟のリレーを重視した強いイニシアチブが表明されている。

(例) ドイツ 2019年、2020年選手選考規程

<Nominierungsrichtlinien 2019 3.1.3(6)/2020 3.2.3(6)>

イギリス 2020年 オリンピック大会セレクションポリシー

<2020olympicGamesSelectionPolicy 1.11/1.12 c>

スイス セレクションコンセプト2020

<Selektionskonzepte 2020 1.2. (4)>

[参考：競技スケジュール比較]

DAYS	Doha 2019	Tokyo 2020
Day 1	100m R1	
Day 2	100m SF & F	Night:100m R1
Day 3	200m R1	Night:100m SF & F
Day 4	200m SF	
Day 5	200m F	Morning: 200m R1 & Night: 200m SF
Day 6		Night: 200m F
Day 7		Morning: 4×100mR R1
Day 8	4×100mR R1	Night : 4×100mR F
Day 9	4×100mR F	
Day 10		

※ 別記基準)

【ダブルスタートへの条件】

「個人種目で極めて価値の高い結果を残す可能性」のある競技者のポテンシャルは、日本陸上競技界にとってなくてはならないものである。リレーと個人競技2種目を追求するのは、極めて大きな負担になることを理解しながら、次に挙げる4つの条件を全て満たすことを前提に、コミュニケーションを取った上で該当する競技者を積極的に支援したい。

- 1) 当該競技者が100m及び200mで、少なくとも決勝進出の可能性を示す記録水準に到達すること。
- 2) 日本選手権で100m、200m両種目優勝すること。
- 3) ダブルスタートが、強い負荷がかかることを認識した上で、4×100mリレーにも出場する強い意思があること。
- 4) 4×100mリレーで最高のパフォーマンスが発揮できるよう、最大限の準備をする意思があること。そのためには、リレー準備に向け強化委員会が計画し、参加を求める遠征、競技会及び合宿に、強化委員会が特に認めた場合を除き、全てに参加すること。

現在計画している行事

- ①. ゴールデングランプリ東京大会4×100mリレーレース (2020年5月10日)
- ②. 東京オリンピック事前リレー合宿 (2020年7月12日～19日)

記：この戦略は、公益財団法人日本陸上競技連盟強化委員会がメンバー委員とともに繰り返し議論を重ね、強化対象競技者の専任コーチとのミーティング、また専門委員長会議での議論を経た上で、理事会に諮って総意で決定に至ったものである。

2020年3月19日

公益財団法人日本陸上競技連盟強化委員会
強化委員長 麻場一徳
強化ディレクター 山崎一彦
男子短距離強化コーチ 土江寛裕